

栃木県におけるコシアカツバメの繁殖分布

遠藤 孝一¹・平野 敏明²・金原 啓一³
仁平 康介³・山内 良隆³

はじめに

コシアカツバメ *Hirundo daurica* は、従来西南日本に多く生息していたが、近年その繁殖分布を拡張し、1972年には北海道でも繁殖が確認された(日本鳥学会 1974)。栃木県では、1962年に鹿沼市で繁殖が確認され、その後県内の他の地域でも繁殖するようになった(日本野鳥の会栃木県支部 1981)。

そこで、われわれは、栃木県における最近のコシアカツバメの繁殖分布を調べ、それと環境との関係を調査することを試みた。結果は必ずしもすっきりとしたものではなかったが、10年後、20年後に同様な調査が行われた際に参考資料となると思われたので、ここにその概要を報告することにした。

調査地および調査方法

コシアカツバメの繁殖分布を明らかにするために、栃木県全域を対象に聞きとり調査と現地調査を行った。

聞きとり調査は、日本野鳥の会栃木県支部の会員を対象に行い、同支部機関誌を通して記録収集に努めた。また、各市町村在住の会員150名を対象に、コシアカツバメの繁殖の有無を手紙や電話で問い合わせた。この場合、地域的な片寄りがないように、県内全域の市町村から会員を選んだ。問い合わせの項目は、同地で繁殖しているツバメの種、観察年月日、場所、営巣数、巣の高さ、営巣している建物の壁面の種類である。

現地調査は、1984年の5月から8月にかけて行ったが、一部の地域は1983年5月から8月にも行った。調査地は、次の30市町村、35カ所である。那須町、黒磯市、西那須野町、大田原市、黒羽町、小川町、馬頭町、喜連川町、矢板市、塩谷町、氏家町、烏山町、真岡市、益子町、二宮町、茂木町、宇都宮市、鹿沼市、今市市、日光市、藤原町、壬生町、石橋町、小山市、栃木市、大平町、佐野市、足利市、葛生町、西方村。

現地での調査は、商店や住宅がたち並ぶ市街地を道路沿いに、自動車や徒歩、バイクで観察する方法を使って行った。コシアカツバメの巣はトックリ形をしており、他のツバメ類の巣と見まちがうことはないので、ゆっくり走行する自動車の中からも容易に観察できた。自動車の場合には、同じコースを3～4回行った。生息を確認した場合には、巣の数、使用中のものかどうか、巣の高さ、巣のあった建造物の壁面の種類と巣の位置を記

1984年9月30日受理

1. 〒321 栃木県宇都宮市峰町408,
2. 〒320 栃木県宇都宮市塙田5丁目2-51グリーンハイツ507号
3. 〒321 栃木県宇都宮市峰町350宇都宮大学探鳥会

録した。また、いくつかの地域では、後で繁殖数の変化を知る資料とするために、巢の位置を地図上に記入した。

なお、各調査地の標高、建物の密集地域の大きさ、調査地の規模については、付表1にまとめた。

結果および考察

調査を行った35地域のうち、コシアカツバメの生息を確認したところは、黒磯市、那須町伊王野、黒羽町、小川町、馬頭町、矢板市、烏山町、真岡市、鹿沼市、栃木市、佐野市、足利市の12地域であった(図1)。このうち、鹿沼市は1962年から、黒羽町と矢板市、烏山町では少なくとも1975、76年ごろから繁殖を行っていたことがわかっている。今回、繁殖が確認された地域の標高は、30mから300mで、平野部に限られていた。繁殖環境は、商品や住宅などが道路沿いに密集した中心街である。これらの地域の市街地の大きさは、那須町伊王野の約600m×200mから栃木市、足利市などの約2km×2.5~3kmまで様々である(付表1)。

一方、コシアカツバメの生息を確認できなかった地域は、次の23か所である。那須町湯本、同町黒田原、黒磯市板室、大田原市、西那須野町、喜連川町、氏家町、塩谷町玉生、藤原町滝、宇都宮市、茂木町、益子町、二宮町久下田、石橋町、壬生町、小山市、西方村金崎、大平町、葛生町、今市市、日光市松原町、同市清滝、同市中宮祠。これらの地域の標高は、大平町の35mから日光市中宮祠の1270mであった。市街地の大きさは、西方村金崎にみられるような道路の両側約1kmに商店がたちならぶところから、宇都宮市のような約7km×4.5kmの都市まで様々である(付表1)。

以上の結果に基づいてコシアカツバメが繁殖している地域とそうでない地域を比較したところ、標高の高い地域を除いて、コシアカツバメの繁殖に影響をおよぼすような環境の違いはみられなかった。たとえば、市街地の大きさをみた場合、コシアカツバメが繁殖をしていない宇都宮市の中心街の様子は、コシアカツバメが繁殖している黒磯市や那須町伊王野と比較すると著しく異なるが、宇都宮市の辺縁地域の建物の大きさや密集度は、黒磯市などとほとんど違いがないのである。

また、宇都宮市や氏家町では、過去には本種の繁殖の記録がある。宇都宮市では1974年、75年に1つがい繁殖を行い、(遠藤・青木 1982)、氏家町では1981年に1つがい繁殖した(平野観察)。一方、鹿沼市では、ここ数年コシアカツバメの繁殖数が著しく減少して

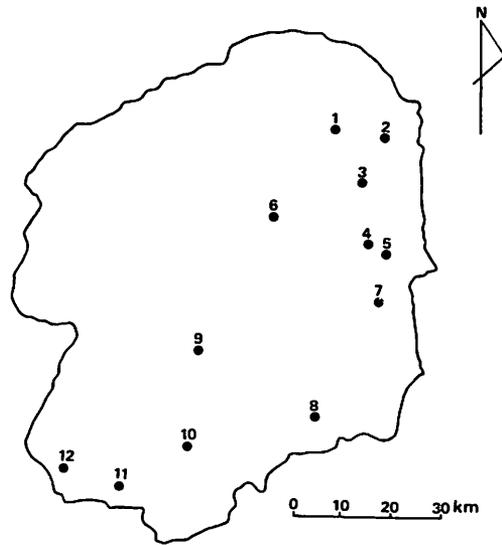


図1. 栃木県におけるコシアカツバメの繁殖分布

1：黒磯市 2：那須伊王野 3：黒羽町 4：小川町 5：馬頭町 6：矢板市 7：烏山町 8：真岡市 9：鹿沼市 10：栃木市 11：佐野市 12：足利市

Fig. 1. Breeding distribution of Red-rumped Swallows *Hirundo daurica* in Tochigi Prefecture.

付表1 調査地の概要と営巣数

| 調査地 | 標高(m) | 建物の密集地域の大きさ ^{1*} (km) | 調査の範囲(km) | 巣の数 ^{2*} |
|-------------------|-------|--------------------------------|-----------|-------------------|
| ロシアカツバメの繁殖を確認した地域 | | | | |
| 黒磯市本町 | 300 | 約1×1 | 市街地を4 | 12 |
| 那須町伊王野 | 250 | 0.6×0.2 | " 0.5 | 11 |
| 黒羽町 | 160 | 0.8×0.4 | " 1 | 8 |
| 小川町 | 115 | 1.5×0.1 | " 1.5 | 1 |
| 馬頭町 | 120 | 1×0.2 | " 1 | 66 |
| 矢板市 | 200 | 1×0.8 | " 0.5 | 5 |
| 烏山町 | 100 | 1.3×0.5 | " 1.5 | 29 |
| 真岡市 | 70 | 1.2×1 | " 1 | 2 |
| 鹿沼市 | 150 | 1.7×2 | " 2 | 3 |
| 栃木市 | 45 | 2×3 | " 1 | 3 |
| 佐野市 | 30 | 2.5×1.5 | " 1 | 9 |
| 足利市 | 35 | 2.5×2 | " 1 | 18 |
| 生息を確認できなかった地域 | | | | |
| 那須町湯本 | 800 | 約0.4×0.08 | 市街地を1 | 0 |
| 那須町黒田原 | 330 | 0.5×0.2 | " 1 | 0 |
| 黒磯市板室 | 400 | 0.2×0.08 | " 0.2 | 0 |
| 大田原 | 200 | 1.2×1.2 | " 1.5 | 0 |
| 西那須野町 | 250 | 1×0.7 | " 1 | 0 |
| 喜連川町 | 125 | 0.2×1 | " 1 | 0 |
| 氏家町 | 160 | 1.7×0.5 | " 1 | 0 |
| 塩谷町玉生 | 250 | 0.5×0.13 | " 0.5 | 0 |
| 宇都宮市 | 120 | 7×4.5 | 市街地を延べ約40 | 0 |
| 茂木町 | 100 | 1.2×0.25 | 市街地を1 | 0 |
| 益子町 | 75 | 1×0.2 | " 1 | 0 |
| 二宮町久下田 | 50 | 1×0.05 | " 1 | 0 |
| 石橋町 | 70 | 1×0.3 | " 1 | 0 |
| 壬生町 | 60 | 1×0.3 | " 1 | 0 |
| 小山市 | 40 | 3×1 | " 1.5 | 0 |
| 西方村金崎 | 85 | 1×0.06 | " 1 | 0 |
| 大平町 | 35 | 1×0.5 | " 1 | 0 |
| 葛生町 | 100 | 1.5×0.5 | " 1 | 0 |
| 今市市 | 400 | 1.5×0.7 | " 1 | 0 |
| 日光市松原 | 533 | 1.5×0.7 | " 1 | 0 |
| 日光市清滝 | 700 | 1×0.2 | " 1 | 0 |
| 日光市中宮祠 | 1270 | 0.5×0.1 | " 0.5 | 0 |
| 藤原町滝 | 400 | 1×0.2 | " 0.5 | 0 |

* 1. 建物の密集地域の大きさは1/25000の地図を参考に表わしたものである。

2. 巣の数は、使用、不使用を問わず、観察したすべての個数である。

いる。1975年5月中旬に国鉄鹿沼駅から黒川にかけて約500m歩いて調査した時には、コシアカツバメの巣を5～6個観察したが、1983、84年にはまったく発見できなかった(平野観察)。これらの地域の場合、過去と現在で環境の大きな変化はみとめていない。

日本におけるコシアカツバメの繁殖分布の状況を見てみると、少なくとも1970年代には、中部以北では栃木県や群馬県の一部を除いて、ほとんどが沿岸地域である(日本野鳥の会、1980)。このことは、コシアカツバメの繁殖分布拡張は海岸沿いに足がかりをつくり、それから内陸へ入り込むのではないと思われる。したがって、栃木県のような内陸部におけるコシアカツバメの繁殖は定着したものではなく、いわば試行錯誤の状況にあるのかもしれない。そのために、特定の環境との結びつきが弱く、一時的に繁殖を試みたり、一時的に繁殖個体数が増加しても何年か後には減少してしまうという状況がおこるのではないだろうか。この点を明らかにする上でも、今後の内陸部におけるコシアカツバメの繁殖分布の動向に興味がもたれる。

謝 辞

コシアカツバメの繁殖記録を得るにあたって次の各氏にお世話になった。安達寛、五反田薫、広田幸弘、生沢信吾、伊東久美子、川嶋一穂、菊地瑞江、岸正敏、北田清助、君島昌夫、小堀寿文、今野研一、舞坂康一、巻島栄吉、真尾博、三森純、宮坂起世子、大橋千鶴子、斉藤チエ子、佐藤光男、志賀陽一、白井さと、須川和一、助川賢一、鈴木貢四郎、高橋敏隆、高橋良枝、高瀬智紹、寺内為敏、内田貢、渡辺健、渡辺知義、山中式夫、山ノ下吉一の各氏。東京大学農学部樋口広芳博士には、原稿を読んでいただき、貴重な御言葉をいただいた。これらすべての方々に厚くお礼申し上げる。

要 約

1984年5月から8月にかけて、栃木県におけるコシアカツバメ *Hirundo daurica* の繁殖分布を調べた。調査方法は、現地調査と聞きとり調査を使用した。コシアカツバメの繁殖は、黒磯市、那須町伊王野、黒羽町、小川町、馬頭町、矢板市、烏山町、真岡市、鹿沼市、栃木市、佐野市、足利市の12地域でみとめられた。これらの地域の標高は、海拔30mから300mで、平野部の市街地に限られていた。しかし、コシアカツバメの繁殖分布と環境との関係は明らかではなかった。

参 考 文 献

- 遠藤孝一、青木篤 1982 宇都宮の鳥。宇都宮大学探鳥会25周年記念会誌、108-117。
 日本鳥学会 1974 日本鳥類目録、改訂第5版。学習研究社、東京。
 日本野鳥の会 1980 鳥類繁殖地図調査。日本野鳥の会、東京。
 日本野鳥の会栃木県支部 1981 栃木県産鳥類目録。日本野鳥の会栃木県支部、宇都宮。

Breeding Distribution of the Red-rumped Swallow.
Hirundo daurica in Tochigi Prefecture.

Koichi Endo¹, Toshiaki Hirano², Keiichi Kanehara³,
Kosuke Nihei³, Yoshitaka Yamauchi³.

The breeding distributions of Red-rumped Swallows *Hirundo daurica* in Tochigi Prefecture were studied from May to August in 1984. Data were gathered by field work and personal communications. The breeding records were obtained in the following 12 urbanized areas: Kuroiso-shi, Nasu-machi iohno, Kurobane-machi, Ogawa-machi, Bato-machi, Yaita-shi, Karasuyama-machi, Mohka-shi, Kanuma-shi, Tochigi-shi, Sano-shi, Ashikaga-shi. These areas lie at 35-300m in altitude. The relationship between the environments and breeding range of *Hirundo daurica* was not clear.

1. 408 Minemachi Utsunomiya-shi, Tochigi 321
2. c/o 507 Green Heights, 5-2-51, Hanawada Utsunomiya-shi, Tochigi 320
3. Birdwatching club of Utsunomiya University, 350 Minemachi, Utsunomiya-shi, Tochigi 321